

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 1月 11日

事業所名

きらめき北谷

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	1	0	安全面に配慮し、受け入れ枠を設けている。施設内は狭いが、工夫して使用している。	今後も、お子さまの様子に合わせて工夫しながらスペースを使っていく。
	2	職員の配置数は適切である	4	1	0	急なスタッフの欠員が出た場合などは利用児童数を調整するなどの対応をおこなっている。	安全面に配慮しつつ、遊びの保証を考えるとスタッフが足りないと感じる事もある。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	0	1	1		構造上難しさもあるが、その都度配慮出来ている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	4	0	業務改善に必要な事はその都度話し合いを行うことができ全員が意見を述べる事もできている。	シフトの調整を行い、可能な限り職員が全員出勤できる日を作り、カンファレンスを行っていきたい。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	0	0	4		アンケートは今後実施予定。評価表今年度実施。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	1	1	2		今年度実施のため未実施。自己評価未実施。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	1	3		新事業所により今回初めてのアンケート。業務の改善に繋げたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		0	DVD研修、研修報告等、Tトレや外部報告会などの実施。	現場対応できるスタッフを配置するなど、シフトを調整しながら、職員がバランスよく研修に参加できるように工夫を行う。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4	1	1		アセスメントについては日々行っているが、客観的な評価は不足している。今後は、アセスメントシートなども活用していきたい。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2	1	2		リタリコ等アセスメントツール検討。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	0	0	週のリーダーを決めて全体を巻き込む形で行っている。	リーダーを中心に、児童に合った活動を設定しながら、チームで動けるように努めていく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	0	0	毎週活動立案のリーダーを変更して、活動のバリエーションが広がる様に工夫している。	リーダーを中心に、月間の活動スケジュールを組み立てていく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	1	1		基本的に曜日固定での利用になっている為、現状としては平日、休日、長期休暇に合わせて計画を分けていない。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	6	0	0	個別と集団を分けて時間を設定している。	リーダーを中心に、児童に合った活動を設定しながら、チームで動けるように努めていく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	0	0		活動前の確認は行っているが、十分に時間や準備を行うことが出来ない事もある。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	1	0		時間によって振り返りが出来ていない場合もあるが、記録やミーティング等で共有している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	0	0	日々の記録は抜けが無いように見返すようにしている。	記録に時間がかかってしまうことがあるため、時間を出来るだけかけず要点を絞って記録を残すようにする。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6	0	0	モニタリング会議や中間評価などは定期的に実施している。	今後も、モニタリング会議の時間を設けるように努力していく。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	1	4	0	児発管を中心にガイドラインに沿った支援を行っている。	職員によってもバラつきがあり、家族支援や地域支援まで配慮できていない職員もいる。今後は児発管を中心に全体を巻き込みながら支援を行っていきたい。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	0	0	担当者会議には、子どもの担当者が参加できるように配慮している。	今後も、メインで関わっている担当が会議に参加できるように調整していく。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	1	2	3		送迎がないため学校との情報共有や連絡調整が難しい。今後の課題。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0	2	0		現在医療ケアが必要な重症心身障害児の利用はない。

関係機関や保護者との連携	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	1	2		必要に応じて実施。コロナの状況で情報共有が難しかった。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	0	2	2		事業所が移行する児童は現在の所まだいない為、行っていない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	1	3		コロナの状況を見ながらではあるが、近隣の発達支援センター、事業所の見学に行き、連携を行っている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	0	5		コロナの影響もあり保育所やこども園との交流などは現在おこなえていない。今後はコロナの状況を見ながら実施していきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	1	0	0		自立支援協議会の委員にはなっているが、まだ部会が実施されていない。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	0	0	LINEや計画書の確認などの機会を活用しながら、保護者との情報共有を行っている。	保護者とのコミュニケーションについては十分時間が取れない事もあるので、今後も意識して行っていく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	1	4	必要に応じて親子で療育に参加してもらっている。	当施設ではペアレント・トレーニングを実施していないので、町の主催で行っている研修にSJよ
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0	0	契約書を交わす際に、出来るだけわかりやすく説明するようにしている。	今後も、保護者に分かりやすいように説明していく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	0	0	個別支援計画書が作成できた際には、個別で保護者に支援計画の内容をお伝えするようにしている。	今後も、保護者に分かりやすいように説明していく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	1	4		現在は未実施。今後企画実施していきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0	0	保護者とはできるだけ密にコミュニケーションを取り、相談についても対応できるようにしている。	今後も、保護者からの希望がある際には、相談などの対応を行っていく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	1	2	2	ブログにて実施している。また、LINEを活用して情報共有を行っている。	会報は発行していないが、LINEやブログを活用して、お子さまの情報やイベントを今後も発信していきたい。
	35	個人情報に十分注意している	6	0	0	鍵付きのキャビネットに個人ファイルを保管するようにしている。	今後も個人情報の取扱いに関しては、公表の前にご家族の意思を確認するようにして留意していきたい。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	0	0	お子さまの特性に合わせて、有効なコミュニケーションの手段を使っている。	今後も、お子さまの特性理解に努め、合理的配慮を行っていく。
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	0	4		コロナ禍ということもあり、積極的に地域住民と交流する事が出来なかった。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	3	0	避難訓練は年2回企画実施している。	防犯マニュアルや感染症マニュアルは未作成。今後作成する予定。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	0	0		10月に避難訓練実施済み。今後も定期的に行っていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	0	0		強度行動障害支援者養成研修や、虐待防止などの研修会に積極的に参加できるようにしている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	1	1	2		現在身体拘束が必要な児童がいない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	1	2		現在、食事提供は行っていない。今後は、活動の中で食事をとる事も想定されるので、その際にはアレルギーの確認が必要になる。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	0	2		ヒヤリハットの報告は対応スタッフが作成し、事業所会議で全職員に共有するようにしている。